

Forest通信 令和4年 10

No.404

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

ヤマガラ

(シジュウカラ科)



レンガ色をした小さな鳥。全長14cm程で、お腹のあたりが赤茶色をし、頭は帽子のように黒く、クリーム色の顔にクリっとした目がある。山地や平地の広葉樹林に留鳥として棲み、高い山地に棲む個体は冬に低い場所へ移動する。春頃に繁殖活動をし、雄はゆっくりとしたテンポで「ツンツンピー」とさえずる。

樹上で枝を移動しながら葉の裏や枝にいる幼虫などを採食し、秋や冬は果実を食べる。ドングリやエゴノキなどの堅い果実も、嘴で割って中身を食べる。また、果実を冬に食べるため、樹皮の割れ目や土の中などに隠しておく習性がある。食べ忘れることもあり、木の種子の散布に役立っている。このように木の恵みで育ち、木が育つためにも貢献している。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

驚き桃の木 高尾の記

NO.10

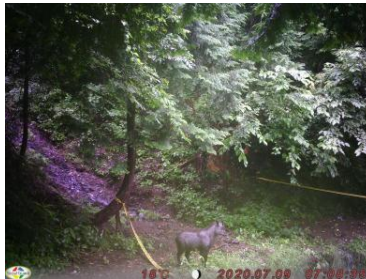


センサーカメラはとらえた！！

高尾山には約30種の哺乳類が生息しているそうです。比較的大型の動物としては、シカ、カモシカ、イノシシ、クマ、サル、ノウサギ、キツネ、タヌキ、アナグマ、アライグマ、ハクビシン、テン、イタチなどがいるようですが、私は高尾山では、まだいずれの動物にもお目にかかったことがありません。年に30回以上行っている小学生を対象にした森林教室では、食痕や糞、足跡などを見かければ説明するのですが、私が当センターに来てから2年半の間、実物に遭遇したことは一度もありません。遠目でも良いので実物を観察できると子供たちも喜ぶと思うのですが、もっともイノシシ、クマ、サルなどは下手に遭遇したりすると危ないですね。

当センターでは、高尾山に生息する大型動物の生息状況を継続的に調査し、その管理等に活用するため、高尾山中に6台のセンサーカメラを設置して月に一回データを回収・記録し、また関係機関への情報提供を行っています。夜間や早朝、夕刻が多いのですが、林道の上でも色々な動物が出没します。撮影頻度としては、ニホンジカが多くなっています。

年間260万人が訪れる都心からも比較的近いこの高尾山にこれだけの野生動物が住んでいることに驚きです！子供たちには、高尾山の豊かな植物相、生態系と野生動物の関わりを説明するとともに、農林業での被害や捕獲についても実態をなるべく包み隠さず話すようにしています。(枝)



森林教室

昭島市立 つつじヶ丘小学校

9月6日(火)に、昭島市立つつじヶ丘小学校杉の子学級の3年生から6年生の児童35名が、森林教室にやってきました。交通渋滞等により到着が遅れたため予定を変更し、午前中は、1時間足らずの間に森林学習と丸太切りを実施しました。森林学習では、アニメを鑑賞し地球温暖化について学び、丸太切りでは、ひとり1枚は切ることを目標に開始しましたが、中には2枚、3枚と切る児童もいました。初めての体験とあってか切り終わると「やったあ〜」と喜び声や、「頑張れ、頑張れ」といった元気な声が各班から聞こえていました。

午後は全体を6班分け、各班5、6名の児童にスタッフ2名を配置し、約1時間45分の森林観察です。森林観察も初めて体験する児童ばかりで、狭い歩道では「怖いよ」と言いながら恐る恐る歩く児童がいる一方、スタッフより先に先にと進もうとする児童もいましたが、スタッフの説明を聞きながら、沢ガニを探したり、カタバミで十円玉をピカピカに磨いたりしながら観察を楽しんでいました。閉校式では、「丸太切りが楽しかった。硬かったけど、ジョキジョキ音がして楽しかった」「オオバコでお相撲をしたのが楽しかった」等々の感想発表があり、楽しんでくれたことを感じることができました。

夏休みが終わり久しぶりの森林教室で、しかも、厳しい暑さでスタッフ一同にとってはくたくたの一日となりましたが、児童たちは元気に、笑顔で宿泊場所へと向かっていきました。(谷)



森林教室

都立 石神井特別支援学校

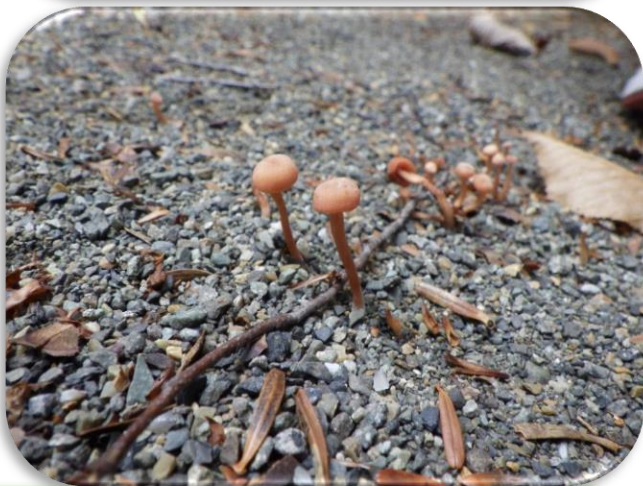
9月15日(木)、都立石神井特別支援学校の中学1年生25名と支援の先生方総勢38名が高尾山に森林観察にやってきました。

当日は、25名の児童と支援の先生方が体力に合わせ3班に分かれ、それぞれのペースで高尾山を歩きながら林内を観察をしました。

- ①健脚コース：ケーブルカ乗り場～みやまつり橋～林野庁慰霊碑前広場
- ②やや健脚コース：ケーブルカー乗り場～薬王院～林野庁慰霊碑前広場
- ③ゆっくりコース：ケーブルカー乗り場～女坂～林野庁慰霊碑前広場の3コースです。

お昼には林野庁慰霊碑前広場で合流して、みんなでお弁当を食べて帰路につきました。

予定より少し遅れての出発だった事もあり、森林観察は少しだけになってしまいましたが、高尾山の空気を胸いっぱい吸ったり、針葉樹のチクチクを触ったり、キノコを見つけたりと楽しく過ごせた1日となりました。(岩)



職場体験

八王子市立 甲ノ原中学校

9月7日(水)～9日(金)の3日間、八王子市立甲ノ原中学校の2年生3名の職場体験を受け入れました。

初日は、概要説明後さっそく現場へ。手鋸を使ったヒノキの間伐と玉切り、林道までの運び出しです。みな運動部に所属している生徒さんですが、終わった後は一様に「疲れた～」「思ったより大変な作業だ」との声。間伐材は、森林教室での丸太切りに使います。

2日目は、初日午後に行ったわが国の森林・林業の現状、課題等の講義を踏まえ、実際にスギ人工林の調査を体験。標準地内のスギ立木の胸高直径と樹高を一本一本計りましたが、3名で役割分担しながら手際よく進めていました。センターに戻ってから材積を求め、調査した森林の木がいくらで売れるかを計算。約60年間育てた立派なスギの木が一本2千円にも満たないとの結果が出てびっくりしていました。

3日目は遊歩道点検で、途中危険木に注意喚起のテープ標示を行いながら山頂へ。森林観察とゴミ拾いをしながら下山。午後は、センサーカメラの画像を見ながら高尾山に生息する動物を確認しました。

3日間、盛りだくさんの体験でしたが、「自然を相手にした色々な仕事を経験できて良かった」などの感想が聞かれました。生徒の皆さんには、これからも森林や林業のことに関心を持ち続けて頂きたいと願っています。(枝)



職場体験

八王子市立 元八王子中学校

9月14日(水)～15日(木)の2日間、八王子市立元八王子中学校の2年生3名の職場体験を受け入れました。今回は学校の事情により2日間に短縮しての実施です。

初日は、手鋸を使ったヒノキの間伐、玉切り、運び出し。3名とも女子生徒ですが、職員のマンツーマン指導で安全に伐倒作業等を終えました。生徒さんからは「大変な作業で疲れたけれど楽しかった」「この大変な作業を一日中やっている林業の方々はすごいなあと感じた」などの感想が聞かれました。

2日目は、いろはの森コースの遊歩道点検の体験。危険箇所のチェックのポイントや対処方法などについて説明を受けながら高尾山頂経由でセンターまでたっぷり3時間歩きました。途中、森林や動植物を観たり手に触れたり臭いを嗅いだりしながら、センターが行っている小学生向け森林教室の際の解説内容や手法などについても説明。「色々な植物や動物のことが勉強できてうれしかった」との声。途中ゴミ拾いも行いましたが、靴底をはじめ色々なゴミが落ちており、皆一様に驚いていました。

生徒さんには高尾山の豊かな自然に触れながら、2日間で色々なことを体験してもらえたと思います。(枝)



出前森林教室

八王子市立 七国小学校

9月27日（火）の午前中に、八王子市立七国小学校5年生162名の森林教室を「高尾の森わくわくピレージ」で実施しました。

当日は、全体を2グループに分け森林学習と丸太切りを交互に行い、森林学習では、森林の働きや林業、環境問題について説明する職員の話に真剣に耳を傾け、メモをとりながら聞いていました。また、会場の都合で、体育館で実施した丸太切りでは、準備した丸太が大きめの丸太だったため苦労していましたが徐々に慣れ、殆どの児童が2枚の輪切りをゲットしうれしそうに持ち帰りました。

閉校式では、「森の働きなどを知ることができてすごく良かった」「地球温暖化防止のために電気の無駄遣いをしないようにしたい」「森林官という仕事を始めて知った。森を大切にしようと思った」「図工でノコギリを使ったことはあるけど丸太を切ってみて大変だった。林業の大変さがわかった」等々多くの感想発表があり、森林の大切さや、林業について色々なことを学んでくれたことを感じる事ができました。児童数が多い上に午前中だけの短い時間での森林教室でしたが、児童たちのキビキビした行動で予定したスケジュールどおり無事に終了することができました。

（谷）



森林教室

八王子市立 第三小学校

秋晴れの中、9月28日に八王子市立第三小学校5年生総勢110名が森林教室にやってきました。今回は「丸太切り」「火おこし」「森林学習（パワーポイント等）」をセンター及び、お隣の高尾599ミュージアムをお借りしての実施となりました。

子供たちは前日に高尾山登山をし、宿泊2日目に当センターを訪れたためか、朝一は若干の疲労感が見えましたが、プログラムが進行するにつれて元気を取り戻してきました。特に火起こし体験では、マッチもライターも使わずに木の摩擦熱のみで種火を着火させることが出来ると、あちこちで歓声が上がりました。また丸太切りでは一生懸命頑張ってヒノキの間伐材に切り込みを入れていました。森林学習では「高尾山の人工林と天然林の比率は？」「高尾山で代表的な花は？」「高尾山の人工林面積は？」など、講師泣かせの質問の嵐でした。

そして閉会式となった頃には、子供たちの満面の笑顔に癒やされた一日が無事に終了となりました。

（磯）



インターンシップを受入れました！

高尾森林ふれあい推進センターは、東京神奈川森林管理署と連携し、令和4年度夏期インターンシップ（8名）の受け入れを行いました。この取組みは、学生が実際の行政実務に接することにより、学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的とするものです。

実施は9月期に3回に分け、1回当たり3日間（1回目3名：9/6～9/8、2回目3名：9/16～9/20～9/21、3回目2名：9/26～9/28）にわたって行いました。参加学生は、東京農業大学、日本大学、明治大学、帯広畜産大学、東京環境工科専門学校など主に森林・林業をはじめ環境などに関する学科を学び研究している学生が中心です。

当センターの取組では、職員が普段行っている業務を通じて日頃の学業などに役立ててもらえるよう、業務を進める上での心構えや進め方をはじめ、できる限り現場体験を中心とした活動に趣を置きました。森林・林業に対する理解醸成のためには、まずは「伝える」側が「伝わる」側の立場に立って物事を考えることが重要です。これらを基本として普段行っている森林教室やクラフト体験など参加者の立場に立って体験してもらうとともに、実施する側の立場からは説明のポイントや注意点などを学んでもらいました。また、東京神奈川森林管理署の取組では、高尾山でのGSS（森林保護員）活動に同行し、入林者へのマナー啓発活動、森林保全管理活動を行う業務を体験してもらいました。

インターンシップ終了後の学生の皆さんからの声の一部を紹介すると、「森林環境教育を行うにあたっての心構えとして、説明する者は「伝える」ではなく相手に「伝わる」ことが大事であることを学べた」「大学で学んだことをこの仕事を通じて実際に経験できたことは貴重な機会だった」「森林教室では子供の反応を見て説明視点を臨機応変に変化させるなど、今まで教わる側の立場であった自分にとって目から鱗の内容ばかりだった」などの感想があり、まさに我々が学んでほしい部分をしっかりと捉えてくれたものと思います。学生の皆さんには、今後の学業や進路選択などに役立てていただければ幸いです。（久）



（実習前の心得を学ぶ）



（クラフトを体験）



（森林散策での説明ポイントを学ぶ）



（間伐の仕方を体験）

つるかごあみ

森の素材を使ってかごを編もう！

実は！林業にとって、ツルは木の成長をじゃまをするやっかいもの！！

でも、そんなツルも立派な「森からのおくりもの」です。森林の手入れをした後にツルを集めました。

この大切な「森からのおくりもの」を余すことなく使いおしゃれなカゴを編もう！



作成例



2022

11 / 26 (土)

高尾森林ふれあい推進

センタークラフト室

10:00～15:00

応募は10月31日まで

(表面・往信面)

(裏面・返信面)

応募には**往復はがき**が必要です(郵便局で購入できます)イベントの詳細は高尾森林ふれあい推進センターホームページにあります。

ホームページ
主催イベント→
ページ



63

往信

〒193-0844

高尾森林ふれあい推進センター
つるかごあみ係
八王子市高尾町2438の1

※何も記入しないでください
センターでの抽選結果通知
記入スペースになります

63

返信

〒郵便番号

ご自分の氏名

様

【返信先】ご自分の住所

- ①つるかごあみ
- ②郵便番号
- ③住所
- ④氏名(よみがなを書くこと)
- ⑤年齢
- ⑥電話番号
(日中必ず連絡がとれる番号)

編集後記

高尾は、朝晩肌寒く感じる日もありますが、1年で一番過ごしやすい季節を迎えています。

森林教室の季節となりました。週3回の森林教室…老体にムチ打って頑張ります。



茶の木の花

Forest通信 NO.404

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

